

岐路に立つ

「古、遠、狭」の

大規模分譲団地と

高齢化に伴う

コミュニティ衰退の分析

空き家が増え続ける中、都心の再開発で新築住宅は大量に供給され、郊外住宅団地の中古価格は低下している。国・自治体は古い団地の再生を支援しているが、分譲住宅の場合は所有者が負担できる金額で効果的な対策は困難で、成果が上げにくい。一方で、問題への対処が求められるコミュニティも、高齢化し衰退し、後継者がいない。

郊外の大規模分譲団地の現状について、統計を利用した検討と現地調査を続けている元高崎健康福祉大学教授 松本恭治さんにお話しを聞きます。



マンションのスラム化と空き家問題を研究により明らかにし、いち早く警告した松本先生が講師です。

2017年

12月7日



開場 18:00
開始 18:30

お話し：松本恭治先生
(元高崎健康福祉大学教授)

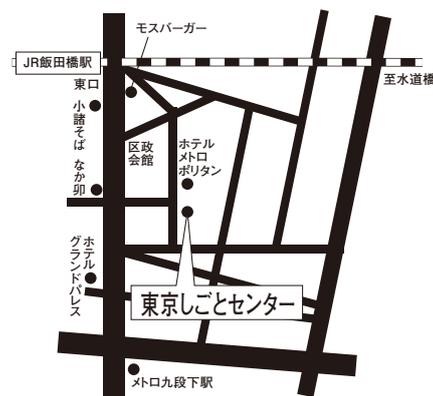
会場：東京しごとセンター 5Fセミナー室
(飯田橋駅 徒歩4分)

参加費：一般1500円、会員1000円、学生500円 (定員40名)

松本恭治先生プロフィール●1943年中国北京市生まれ(親の話では危うく戦争孤児になるところであった)。1967年横浜国立大学建築学科卒、1969年同大学院修士課程修了、1969年同大学助手 設計に集中、ところがひよんなことから人生が暗転、1975~2001年 国立公衆衛生院勤務、2001~2010年高崎健康福祉大学勤務、健康福祉学部大学院教授で退職、2003年日本マンション学会論文賞。主な研究テーマ 住まいと健康、都市住宅問題



申込み <http://www.machi-kaeru.com/>



※終了後、懇親会を予定しています。(会場未定、費用別途)
※いずれも事前に申込が必要です。申込なしでご来場頂いた場合は資料や席が用意できないことがあります。当日、都合が悪くなった場合はキャンセルをお願いします。
※定員に達し次第締め切らせて頂きます。